

ジオスペース館だより

図はステラナビゲーター11を用いて作成

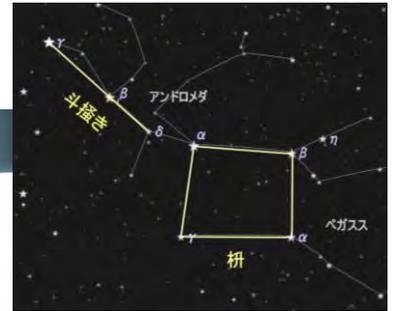
★ こんげつ ほし 今月の星もよう ★

11月中旬の夜8時頃、南の空を見上げると、天頂付近に秋の夜空のシンボル、明るい星が4つ並んだ《秋の四辺形》が見えています。四辺形の左上の星から北東に、V字形に連なる星々が「アンドロメダ座」で、ギリシャ神話に登場するアンドロメダ王女の姿を表した星座です。ギリシャ神話では、アンドロメダは古代エチオピア王国の王女で、海の怪物・化けクジラに襲われそうになったところを、英雄ペルセウス王子によって救われたといわれています。そのペルセウス王子は、「アンドロメダ座」のすぐ隣の北東に「ペルセウス座」として、勇ましい姿が描かれています。アンドロメダ王女の頭を示す星の名前はアルフェラッツといい、アラビア語で〈馬のヘソ〉という意味です。もともとは「ペガサス座」の星だといわれ、長い間、「アンドロメダ座」と「ペガサス座」の両方に属していましたが、1930年に星座境界線が決められたことで、現在は「アンドロメダ座」の星となっています。また、この時期の南の空には、《秋の四辺形》の下に明るく輝く木星が見えています。



★ とかきぼし(斗掻き星)【星の和名のお話】

「斗掻き星」は、アンドロメダ座のV字形の左列、アンドロメダ王女の胸から足先へ続く、3つの星を結んだ星の並びの和名です。〈斗掻き〉は昔使われていた道具の一つで、米などの穀類を量るとき、〈枡〉に穀類を多めに盛り上げてから、盛り上がった部分を平らに均す、短い棒のことで、秋の四辺形が〈枡〉のように見えることから、その横に並ぶ3つの星を〈斗掻き〉に見立てて、このような和名で呼ばれていました。



★ 11月8日、皆既月食 天王星食!

11月8日の夜、皆既月食が起こります。この月食は日本全国で観察できますが、部分食の始まりが18時09分、皆既食の始まりが19時16分、食の最大が19時59分、皆既食の終りは20時42分、部分食の終わりが21時49分です。皆既となった月は通常、「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色にみえますが、皆既食の月の色は月食の度ごとに違いますから、8日の月の色の変化をよく観察してみましょう。また、部分食が終わっても、しばらくの間はぼんやりと薄暗い月が続くかもしれません。これは、月が地球の半影の中を移動しているため、満月の月の光にもどる(半影食が終る)のは、22時57分です。



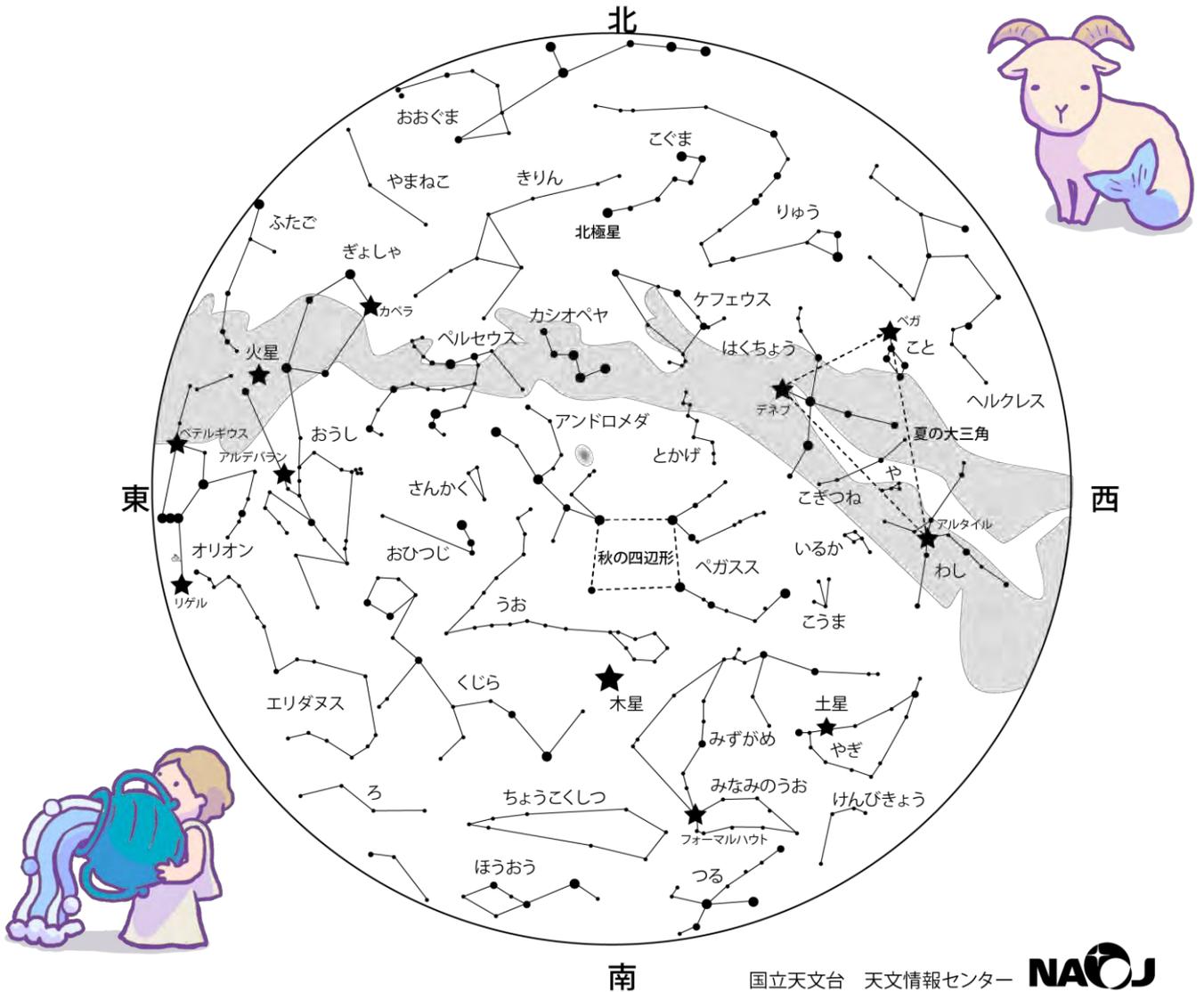
また、この日の皆既月食の最中に、月が天王星を隠す「天王星食」が起こります。豊川市では、天王星の潜入開始が20時35分、約15秒足らずで潜入が完了し、約45分後の21時20分に出現開始、約15秒後に出現完了となります。天王星は、周辺の明るさや大気の状態、視力などが良ければ肉眼で見えることもありますが、約6等級とかなり暗いため、双眼鏡や望遠鏡を使うと観察しやすいと思います。

★ 11月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 11/4(金)、7(月)、14(月)、16(水)、21(月)、24(木)、28(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

11月上旬午後9時頃の星空



南 国立天文台 天文情報センター NAOJ

★ 11月上旬の主な天文現象

1日(火) ● 上弦 <small>じょうげん</small>	9日(水) 水星が外合 <small>すいせい がいごう</small> 、天王星が衝 <small>てんのうせい しゅう</small>
7日(月) 立冬 <small>りっとう</small>	11日(金) 月と火星が接近 <small>かせい せつきん</small>
8日(火) ○ 満月・皆既月食・天王星食 <small>てんのうせいしよく</small>	13日(日) おうし座北流星群が極大 <small>さきだりゅうせいぐん きょくだい</small>

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 11/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 11月 6日(日) [見やすさ○]	5:29 北北西 ~ 5:35 東
◇ 11月 8日(火) [見やすさ◎]	5:30 北西 ~ 5:36 南東
◇ 11月 9日(水) [見やすさ◎]	4:44 北 ~ 4:48 東南東
◇ 11月 10日(木) [見やすさ○]	5:31 西 ~ 5:36 南

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。